

初心者さんの年間プラン例



❌無理をしないで楽しく

初心者さんに願うのは、楽しい成功体験をしてほしいということ。「説明通りにやったのに失敗……」「枯れちゃった!」こうなると「栽培のセンスがないのかも……」と落ちこみ、二度とやりたくなくなってしまうかもしれません。また「上手くできたけど大変だったからもういいや」と飽きられるのも困ります。

初めてプランを立てるときは、無理なくできるように、プランターの数を限ってもよいでしょう。あれもこれもと欲張ると、結局目が行き届かず、病気や害虫の発生に悩むこととなります。数が少なければじっくり手入れができ、野菜の成長をしっかり観察することができます。

❌秋から育てるのがおすすめ


春も秋も、過ごしやすさでいえば気候は同じように感じます。でも春は夏に向かい、秋は冬に向かう季節。春は、気温上昇に伴って植物がぐんぐん成長し、水やりの回数が増し、病気や害虫の発生も多くなって手間が増えていきます。しかし秋は、気温低下に合わせて水やりの回数が減り、害虫の発生が少なくなり、植物の成長も緩やかになります。そのため秋の方が楽に栽培することができます。

秋の栽培とは、栽培カレンダーで、8月下旬から始められるものをさします。本書30~35ページを開き、お住まいの地域区分の栽培カレンダーを見てください。カレンダーの今の季節（月）に縦に定規を当てると、どんな野菜が育てられるのかすぐにわかります。

❌プランターごとに考える作付け計画


野菜づくりで気をつけることは「連作」です。連作とは、同じ場所に同じ科目の野菜を続けてつくることをいいます。連作すると、その野菜をおびやかす病原菌や害虫が多くなったり、土中の養分が不足したりして、野菜の生育が悪くなります。これを「連作障害（れんさくしょうがい）」といいます。プランター栽培でも、連作によって生育不良を起こさせないように、同じ科目の野菜は続けてつくらないようにします。栽培カレンダーに、科目も記載していますので参考にしてください。

例えば浅型プランター1つの場合で考えてみましょう。8月の終わりにチンゲンサイ（アブラナ科）を育て始めたら、11月には収穫が終了。次はイチゴ（バラ科）を植えつけ、収穫は翌年の5月。その次はパクチー（セリ科）など……。

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
	チンゲンサイ			イチゴ								パクチー			
	タネまき→収穫			植えつけ								→収穫		タネまき→収穫……	

気がつけばもう1年です。1つのプランターで、年間に栽培できるのは3~4種類程度であることがわかります。

深型プランターなら、下図のようになります。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
	ソラマメ（マメ科）								ミニトマト（ナス科）						
	タネまき								→収穫					植えつけ	→収穫……

果菜類は栽培期間が長いので、年間2種類程度になってしまうことが多いですね。

まずは浅型と深型のプランター1つずつ。秋から育てる野菜でスタートすれば、無理なく始められるのではないのでしょうか。